

快適な作業場所の「穴場」を今すぐみつけよう

高山和華

- ・ システムエンジニアとして5年勤務
- · 起業志望
- ・ 週末はカフェでノマドワーカー

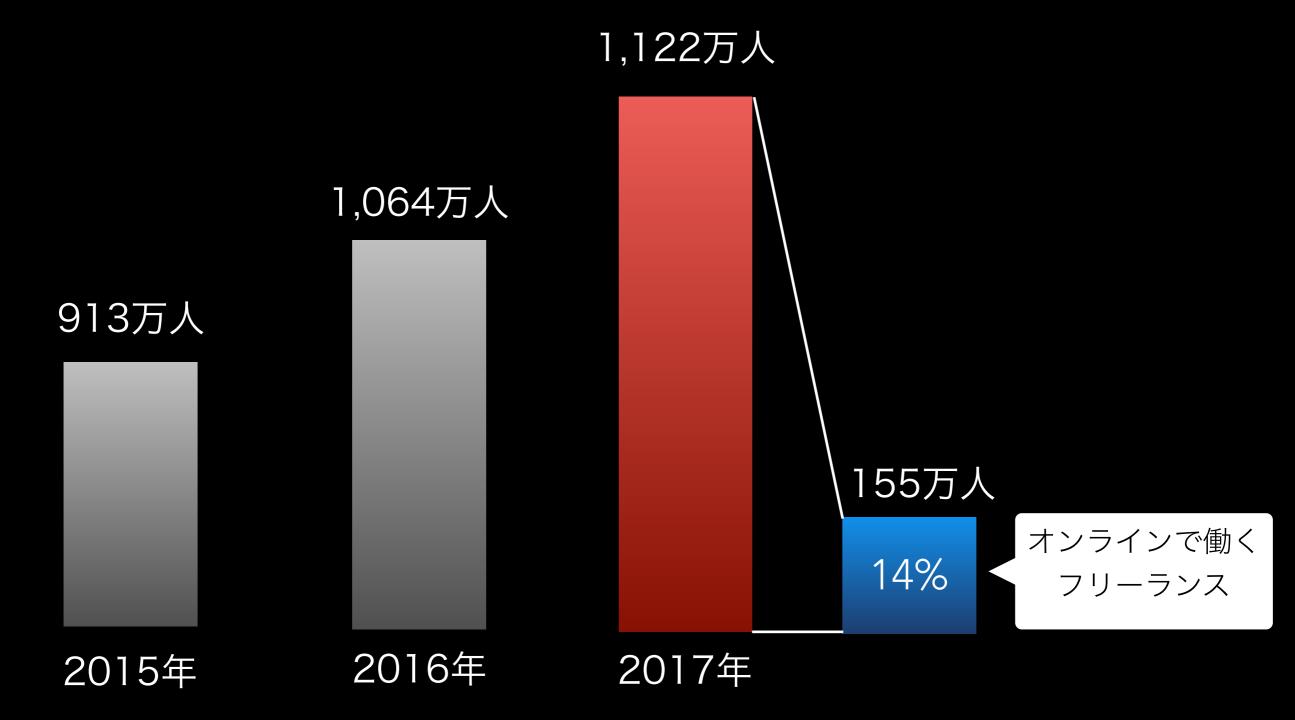








フリーランス市場規模



(フリーランス実態調査2017年版 より)

50%

週1回以上

1時間

50%

フリーランス

週1回以上

場所を変える

1時間

使って

50

1週間で

调

25億円

フリーランス 時給@¥5,000で計算

フリーランスのニーズ

今、どこが一番 快適な作業場所なのかすぐに知りたい

無料WiFiがあればすごく良いけれど それよりも<u>落ち着いた雰囲気で集中できる環境</u>かどうか

人気のカフェは <u>ざわざわとウルサイ</u> 中年向けのような 小さな喫茶店の方が オススメ

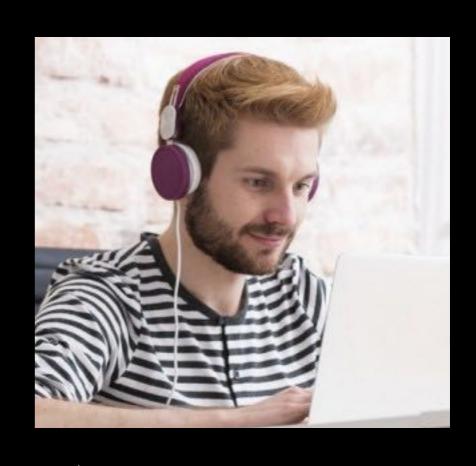
図書館がお金がかからないのでオススメ ただ、妙にうるさかったりするので 最初から雑音があるカフェが却っていいかも <u>一番大事なのは環境</u> いくら安くても 便利な場所でも、周囲の 環境が悪ければ ストレスがたまる

スタバやファミレスはノマド民が多いので雰囲気的に仕事をしやすいですが やはり<u>音がうるさくて集中できないの</u>と、 混むとお店に悪いという思いがある。

公園は無料で静か

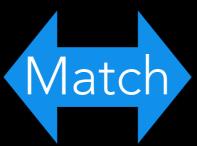
作業場所のニーズ





作業場所のニーズ

空席をなるべく減らしたい



フリーランスのニーズ

どこが快適なのか知りたい



今、快適な作業場所がすぐにわかるアプリ

「快適度」で 作業場所を選択



iPhoneアプリで すぐ選択



loT・機械学習を 用いて快適度を計測



快適度とは

ファシリティ

- ・ Wi-Fi あり・なし
- 電源あり・なし
- 禁煙あり・なし

環境

- 混雑しているかどうか
- ・ 室温・湿度が適切かどうか
- ・うるさいかどうか

快適度とは

ファシリティ

- ・ Wi-Fi あり・なし
- 電源あり・なし
- 禁煙あり・なし

環境

- 混雑しているかどうか
- ・ 室温・湿度が適切かどうか
- ・うるさいかどうか

情報取得の方法









騒音センサ

快適度とは



iPhoneアプリですぐ選択できる

フリーランスの7割は

スマホで作業場所探し



iPhoneアプリで 作業場所を確認可能に



IOT・機械学習を用いて快適度を計測

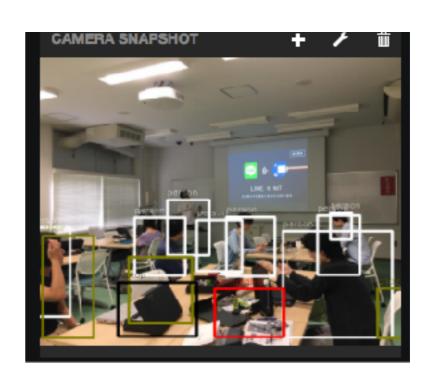
IoT

Raspberry Piを用いて 環境情報を収集

- · CO2濃度
- ・温湿度
- ・照度
- ・騒音
- ・ホコリ

機械学習

機械学習を用いて カメラ内の人数を Raspberry Pi 内で検出





快適度として提示

システムアーキテクチャ

センサー(Raspberry Pi)

環境情報取得

CO2センサ

温湿度センサ

騒音センサ

ホコリセンサ

照度センサ

人体検知

魚眼カメラ

物体検知ライブラリ

(TensorFlow, Darknet)







サーバー(Heroku)

Django

Django REST Framework





iPhone Swift



デモ(アプリ部)

アプリの動画 遷移を見せてあげるとよい 30秒で

デモ(センサー部)

可能であれば、実際の生データの画像解析結果を デモできればかっこいい (ただし動画は作成しておくこと)

装置の写真を最初に見せておく

ジーズが空いてるとき ジーズが混んでいるとき で2画面で出しておくとわかりやすい カメラ画像 空いているとき 右にカメラ・左にiPhoneで動画で

ビジネスモデル

作業場所 (カフェ)

施設の利用

アプリ利用者(フリーランス)

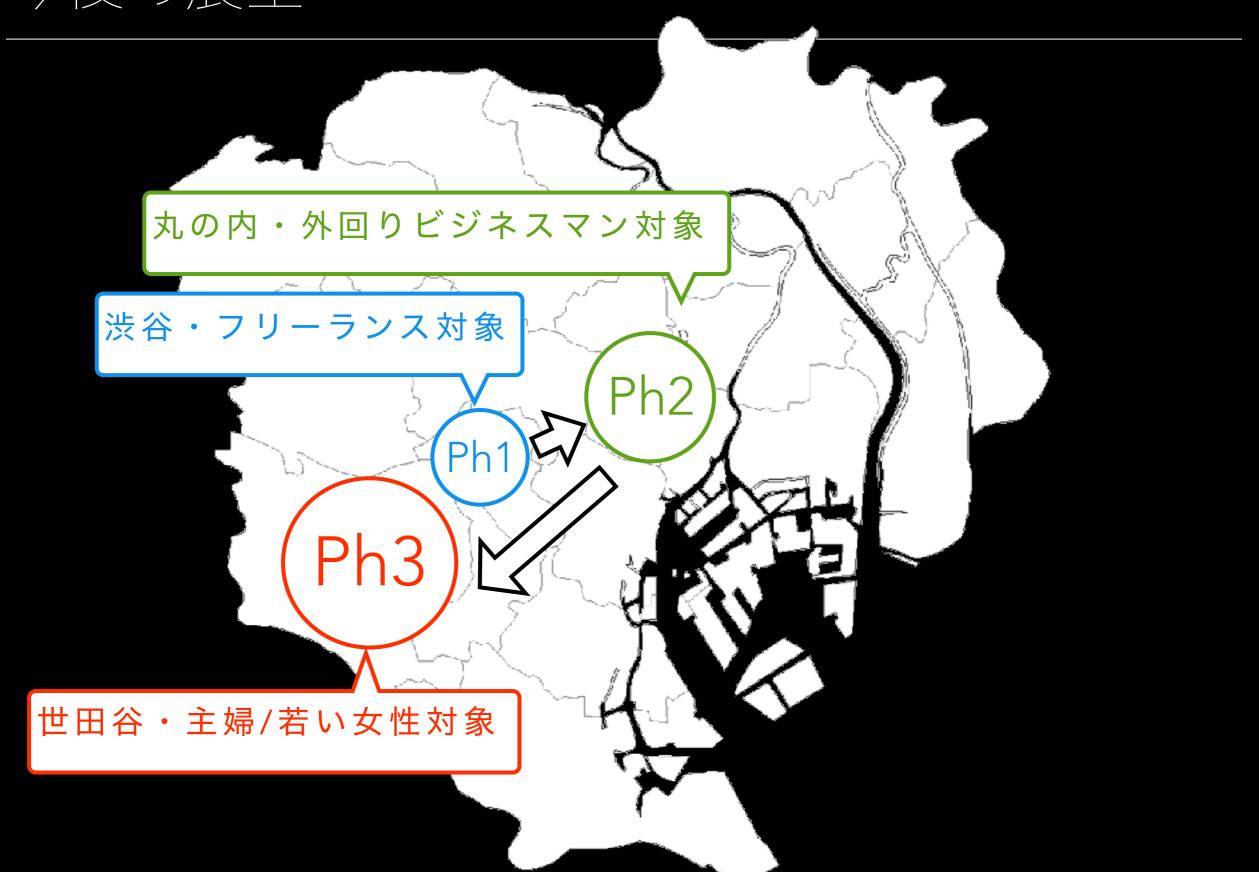
来客者数に応じて支払

環境センサ貸与

アプリ提供

Anaba works ←

今後の展望



競合サービスとの違い



レンタルモデル

形の、本界モデル

お金払って機能を制限する等 もう少し考えたほうがよい... アプリ側でのか

iPhoneである必然性を説明するスライドを1枚 絶対に入れたほうがいい。

iPhone App Storeの課金はやりやすい

課金

あえて実装力をNativeをiPhoneアプリ版を選択した

iPhoneである必然性

今後の展望(ビジネスモデルと紐付ける)

センサーの低コスト化

今回かかったセンサ

低コスト版 センサ

ARDUINOとESPで作れば3000円くらいに抑えられるはずなので、具体的な見積もりを提示…

予算度外視でもいいので今後のプランを考える リテラシーの無い人でも使えるように どうやって、つくったものを広めるかを考える

広告機能を設けることで作業場所が導入するインセンティブを拡大させる

Why Now?

今後の展望



Your Text caption

その他

企画を詰め終えて、余力があれば、 Webを作るのもありかもしれない